

県内総合

新治、中村地区も運行

土浦コミバス10月から3年間

土浦市の地域公共交通活性化協議会（会長・岡本直久筑波大大学院准教授）が26日、同市下高津の市保健センターで開かれ、新たに同市の新治、中村の2地区で今年10月から、コミュニティバスを試験運行することを決めた。期間は3カ年。バス路線の空白地区を対象に2010年度に試験運行地区を公募したところ、新治、中村、右木の3地区から応募があり、運行計画案が提出された。

3地区の全世帯を対象に、運行計画案を提示して実施したアンケートを基に、事業への賛同や採算性、利用意向など16の評価指標と

とに地区を順位付けし、浦駅を往復する朝夕ルート、地区を巡回する昼ルートの1日16便。運賃は200円と350円（子ども、障害者半額）。中村地区は西循環、東循環の2ルートを交互に運行する1日18便。運賃は200円（子ども、障害者半額）。運営主体は地区と同協議会、市。市が運行経費の7割を上限に負担し、運賃収入が残り3割に満たない場合は地区が負担する。運行経費の3割

から運賃収入見込みを引いた差額は、新治地区が年間1992万円、中村地区が同80万円と試算されている。

同協議会は今後、運行事業者を決定し、2地区と詳細な事業計画を策定する。

（仁平克幸）

県に義援金1000万円

県サッカー協会 復興に役立てて

東日本大震災を受けた県サッカー協会（希望とともに）とプリントされた特製Tシャツを販売して収益の半分を寄付金とする取り組みなどを紹介し、協力を呼び掛けた。

同協会は6月4日、北茨城市内の子どもたち150人をカシマスタジアム（鹿嶋市）に招待し、子ども100人対鹿島アントラーズ代表選手らが出場する観戦する取り組みも予定している。



橋本昌知事に義援金の目録を手渡す海野透県サッカー協会長（左から2人目）＝水戸市笠原町

いしのりば
はぎわら
ストーンガーデンニングまで
OPEN PLACE

ガーデンニング・外構工事設計
ご予算に合わせた墓所作り

見積無料

萩原石材(株)

本社・桜川市長方1299
☎0120-75-1893
水戸店・茨城町前田1680-20
☎0120-19-1893

記者手帳

○：「今回は第1弾。さらに第2弾に向け、取り組みを続けていく」と県サッカー協会の海野透会長。震災復興のための義援金として県に1千万円を贈った。協会は募金活動のほか、特製Tシャツの販売などを進めている。

「Tシャツを1千円で購入すると、そのうち500円が義援金になる」。既に1万7000枚の購入申し込みがあるという。義援金1千万円のうち720万円はTシャツ販売の収益。「手軽に参加で

手軽に参加できる支援活動

きる支援活動として、職員にも広めてほしい」とPR。（斎）

○：「茨城、栃木、群馬が古来より、いかに濃密な交流があったか。出土品を見ればわかる」とは、県立歴史館の北関東道全線開通記念展「道は文化の交差点」を担当する川又清明主席研究員。

例えば弥生時代。「発掘場からその地域の特徴を持つ土器に交じり、必ず他2県の特徴を持つものが出土する」。海塩を入れたと思われる製塩土器が、内陸栃木の遺跡から出土することも。「他県から当時、嫁入りしたり、流通があったり。遺物から想像するのも楽しい



常磐地域の復興を考える

の主催。茨城NPOセンター・コモンズ常務理事の横田能洋さんがんばつ、いわき、ネ

32市幹部
動静
水戸市
日立市
土浦市

療部副部長の安田貢 師は「(消防の)現場

復興を考える

東日本大震災
義援金
茨城新聞文化福祉事業団
筑波メディアカルセンター
（石川）雄雄センター
職員有志一同が23万
7239円。施設内に設
置した募金箱に寄せられ
た職員の善意。同センタ
ーの稲葉勝美事務局長、
石川センター長、藤田慎
一事務局総務部長代理、
写真左から1が土浦つく
ば支社に届けた。

水戸市のベストグルー
プ荻沼美枝子さんが1万
5千円。

筑波山ロープウェイや
同ケーブルカーを運営す
る筑波観光鉄道（法雨慶
成社長）が4万1955
円。「筑波山つじまつり
」期間中に開かれたキ

知事
○上月副知事
○山口副知事
○企業局長
○病院事業管理者
○教育長
○政策審議監